

児童の思考を促す
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
～黒笹小学校の取組から学ぶ～



岐阜聖徳学園大学 教授
玉置 崇

▶ わたしたちがめざしてきたもの



目を輝かせながら、進んで学習する子どもを育てたい！



児童のいろいろな「たい！」を生み出せば・・・

調べたい

話したい

考えたい

もっと
知りたい！



めざす子ども像に近づくだらう。そこで・・・

令和5年度研究テーマ

児童の思考を促す主体的・対話的で深い学びをもとめて
～「たい！」を**生み出す**学習をめざして～

令和6年度研究テーマ

児童の思考を促す主体的・対話的で深い学びをもとめて
～「たい！」を**引き出す**学習をめざして～

令和7年度研究テーマ

児童の思考を促す主体的・対話的で深い学びをもとめて
～「たい！」を引き出し**学びをつなぐ**～

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

主体的・対話的で
深い学びの実装

誰一人
取り残さない

主体的・対話的で
① 深い学びの実装
(Excellence)

主に第2,3,4,6章
(生きて働く「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体化・深化、「好き」を育み「得意」を伸ばす、情報活用能力の抜本的向上、個別最適な学び・協働的な学び等)

② 多様性の包摂
(Equity)

主に第3,7章
(調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザイン、個別最適な学び・協働的な学び等)

③ 実現可能性の確保
(Feasibility)

主に第5,7章
(授業時数の適正化・平準化、教科書の精選・構造化、裁量的な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出、カリキュラム・マネジメント等)

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

教育課程企画
特別部会
「論点整理」

主体的・対話的で
深い学びの実現
を通じた

「好き」を育む
「得意」を伸ばす
→ まさに
「～たい」の育成

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

自らの人生を舵取りする力 と 民主的で持続可能な社会の創り手 育成（今後の検討イメージ）

補足イメージ1-②

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)

×

当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる

思考を促す対話

【各教科等での検討イメージ】

好き・得意をベースとした
主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼

課題設定
の充実

個人探究
グループ探究

総合

生きて働く「確かな知識」の習得

興味・関心が広がる
教材・学習方法の選択を促進

自分の意見を表現する活動の充実

探究的な要素を持つ学習活動の充実

家庭学習の内容を自律的に決めら
れるような段階的指導
(家庭学習はじめる学習習慣の確立を含む)

各教科等

児童生徒主体のルール
形成や学校生活改善、
行事の創造等の明確化
(みんなが学びやすいルールや環
境の構築を含む)

納得解を形成しようとす
ることの重要性の明文化
(安易な多数決の回避や少数意
見の吟味)

特別活動

考え、議論する
道徳の徹底
(主体的な判断の
重要性、知・徳・体
の調和のとれた発達
に向けた、道徳的価
値の対立を乗り越え
る必要性や道徳的
実践の強調)

道徳

言葉を用いて思考を深めていく指導

他者と関わり協同する力の育成

多様な子供を誰一人取り残さない
視点としての個別最適な学びと協
働的な学びの一体的充実

科学的知見も生かした
効果的な指導計画・授業方法
児童生徒の学習方略の指導

障害や認知特性等
多様な実態を踏まえた調整
(教科等、家庭学習含む)

全ての活動の基盤としての
心理的安全性の確保

教育課程企画
特別部会
「論点整理」

学びをデザインする高度専門職としての教師
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
総合的な勤務環境整備

〈子どもの笑顔のために〉【授業】

- 「たい！」を引き出す授業づくり
 - ・魅力的なゴール 「やってみたい！」
 - ・仲間の「分からない・困った」を生かす
⇒ 自分で、みんなで「解決したい！」
 - ・他者参照で学びを深める
 - ・自己選択、自己決定の場の設定
 - ・振り返りを次の学びにつなげる
… 子ども同士、子どもの言葉をつなぐ
(ファシリテーター役の教師)
 - ・エピソード評価で価値付ける
- 子ども同士の関わり合いを深める
 - ・話したくなる聴き方 ・話したい思い
… ざざっこタイムで土台づくり
- ICTのスキルアップ
 - ・思考をつなぐツールとしての活用
⇒ 他者参照で学びを深める
 - ・デジタル・シティズンシップ教育



助言の芯は、「誰一人取り残さない」ということでした。振り返りの活用、自己選択・自己決定の場の設定、ICT機器の活用、他者参照による学びを深める場の設定、自由進度学習など、さまざまな手だてに挑戦しながらも、手だてのための実践ではなく、「誰一人取り残さない」ための教育実践が重ねられるよう、グランドデザインにも本研究を位置付け、全教職員が同じ思いで取り組んでできました。

研究紀要 「はじめに」
黒笹小学校長 江上俊郎

小・35人学級の多様性

特異な才能の
ある子供

0.8人
(2.3%)

発達障害の
可能性のある子供

3.6人
(10.4%)

不登校

0.6人
(1.7%)

不登校
傾向

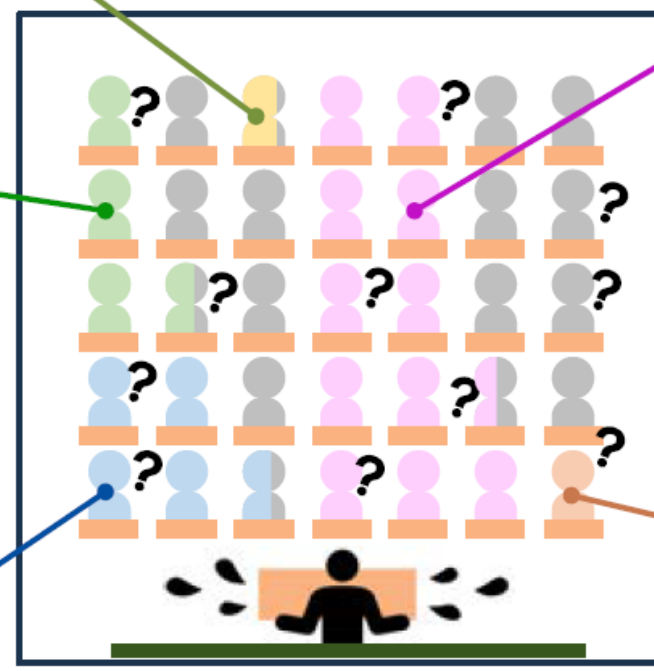
4.1人
(11.8%)

家にある本の冊数が
少なく学力の低い
傾向が見られる子供

11.5人
(32.9%)

日本語を家で
あまり話さない子供

1.0人
(2.9%)



【出典】内閣府 総合科学技術・イノベーション会議「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」をベースに更新
発達障害の可能性のある子供：「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査（令和4年12月）」
不登校：「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の課題に関する調査」 不登校傾向：日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査（2018年12月）」
特異な才能のある子供：日本には定義がないため、IQ130以上を仮定し、知能指数のベルカーブの正規分布を元に算出。子供の吹き出しは、文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議アンケート」を参考に編集。（内閣府） その他：「令和5年度 全国学力・学習状況調査」

「これまで通り」で「誰一人取り残さない」は可能か？

GIGAスクール構想

誰一人取り残すことなく

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの
授業改善

自立までの最終ゴール
「自力で学びを調整できる子」



めざす
子ども像

- ・ 進んで課題を見つけ、追究できる子
「知りたい!」「調べたい!」「やってみたい!」
- ・ 友達と協働的に学び合うことで考えを深められる子
「比べて考えたい!」「聴いてみたい!」「伝えたい!」

自力で学びを調整できる子



教師はいつまでも付き合えない。教師がいなくなってもできる力を育てたい。

手だて1

「めざすべきゴールの姿を共有し『たい!』を引き出す」

この単元ではどのような力を付けるのかを共有し、「やってみたい!」「できるようになりたい!」「調べたい!」「解決したい!」と思えるような、魅力的な手だてを講じることで、児童の「たい!」を引き出し、主体的に学習を進める。

この授業が成功したら、子どもはどんなことを言ったり書いたりしたらよいか
これを考えることが重要

「やってみたい!」「できるようになりたい!」「調べたい!」「解決したい!」
の明確化が効を奏している黒笹小

提

言

〈164〉

「働き
じいばあ

令和6年9月18日に文科省が出した「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」に注目している。この「各教科等の目標・内容、方法、評価」の項に、「（略）学習指導要領の趣旨の実現に向けた教育課程の編成や授業改善における指導観や教材観等は明確にできるようにしつつも（略）」の記述がある。これを目にしたとき、この頃の参観授業から感じていた違和感の要因が、自分の中で明確になった。

最近、授業を見た後に「薄っぺらな授業だった」と感じる事が多くなっていて、なぜそう思うのか、説明できない状況が続いていた。授業の流れ等に問題はないし、子どももよく活動していて、「良い授業でした」と講評しつつ、自分の中ではしっくりこないのだ。

先に紹介した文言に合い、違和感の大本が分かった。授業者が授業に際して「指導観や教材観」を十分に練っておらず、授業を通して、このような子どもを育てたい、この単元でこうした力を身に付けさせたいという思いが薄いからだという結論に至った。

増えたと感じる「薄っぺらな授業」

文科省有識者会議
論点整理を読んで



玉置 崇

岐阜聖徳学園大

増えたと感じる「薄っぺらな授業」—— 文科省有識者会議
論点整理を読んで

「働き方改革」が進む
ことは良いことだが、短

「指導観」「教材観」練り、自分磨きを

縮したり省いたりしては
いけないことを安易に切
ってしまっている。その
一例が、学習指導案作成
における「指導観」や
「教材観」の省略だ。せ
めて年に一度程度は練り
に練って書き上げた「指
導観」や「教材観」があ
る学習指導案を作成した
い。

私は、指導・助言をし
ている学校で、次のよう
に伝えることがある。

「子どもを主体的にさ
せるための画期的な方法
はありません。先生方が、
この学校の研究方針と手
だてを心の底から理解
し、それをいつも心して
おくことです。そうであ
れば、授業などのさまざ
まな教育活動で先生方が
発する言葉が豊かになっ
てくると思うのです。教
師の指導言が変わること
が、目指す子ども像を具
現化する最良の方法で
す」

私のこの主張は、先に
紹介した「薄っぺらな授
業」を防ぐことにつなが
ると考える。「薄っぺら
な印象の授業」は、教師

これらの大切さを心の底から理解しているかどうか

主体的・対話的で深い学びができる子どもを

心底、育てようとしているか

題材を通して求めたい子どもの変容が明確

【 学習前の児童の姿 】

本学級には、音楽活動において、歌唱や音楽づくりに意欲的に取り組むことができる児童が多い。また、曲を聴いて、「楽しい気分」「前に進んでいる感じ」などの様子や雰囲気を感じ取る力も徐々に身に付いてきている。一方で、曲から感じ取ったものを友達に伝えたいという思いはあるものの、それをどう伝えてよいかわからず、共有できないまま終わってしまう場面が多い。



【 題材終了後の児童に期待する姿 】

曲から感じ取ったこと（様子や気持ち、風景など）と、音楽のことば（音色、旋律、強弱、速度などの反復音楽を形づくっている要素）を結び付け、自分の思いに合った表現を考えることができる。また、友達との交流を通してさまざまな表現に触れ、表現の仕方は一つではないということに気付く。

「たい！」を引き出すために

← 題材の導入では、「たからばこ」の中に、曲の感じ（様子や気持ち）を表す言葉と、「音楽のことば」（音色、旋律、強弱、速度などの音楽を形づくっている要素）がしまっているという設定を作り授業を展開することで、「宝箱をひらいてみたい」という気持ちをもたせ、学習に対する探究心を育んでいく。

旋律の動きを表すために図形楽譜を用いることで、自分が聴き取ったことが形になる喜びや、友達に伝わるうれしさを味わわせ、「自分の考えをもっと伝えたい」「友達の考えをもっと知りたい」という気持ちを生み出していく。

本時の終盤では、体を自由に使って「音楽のことば」を表す活動を取り入れ、次時から行う表現活動への意欲を高めていく。

①学習(追究)課題の選択 ②学習(追究)方法の選択 ③学習(追究)形態の選択

選択は自由に行わせるのではなく、選択できる環境を整えたり、選択するための枠組みを決めたりすることを基本とする。また、なぜその選択をするのかという意思決定を大事にし、そのよさを理解した上で選択できるようにする。朝の帯学習の中で、選択方法について学ぶ活動を行うことで、よりよい選択ができるようにする。

自己選択についての重要点を押さえた実践がされている

選択は自由に行わせるのではない

選択できる環境を整える、枠組みを決める

なぜその選択をするのかという意思決定を大切にする

自由選択学習は、単なる実習、孤独化を生む懸念ありに
しっかり対応している黒笹小

手だて3

「振り返りで新たな「たい!」を引き出し、学びをつなぐ」

- ①前時の振り返りを、本時のめあてに生かすことが基本。
- ②さまざまな場面で、振り返りを生かす。
- ③学習内容に関わることについて振り返り、新たな「たい!」を引き出す。

「振り返りの重要性」への腹落ちあり
様々な場面での「振り返り」がある黒笹小

振り返りの重要性は
「主体的な学び」「主体的に学習に取り組む態度」
の定義から明確

「主体的な学び」

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、**自己の学習活動を振り返って次につなげる**「**主体的な学び**」が実現できているか。

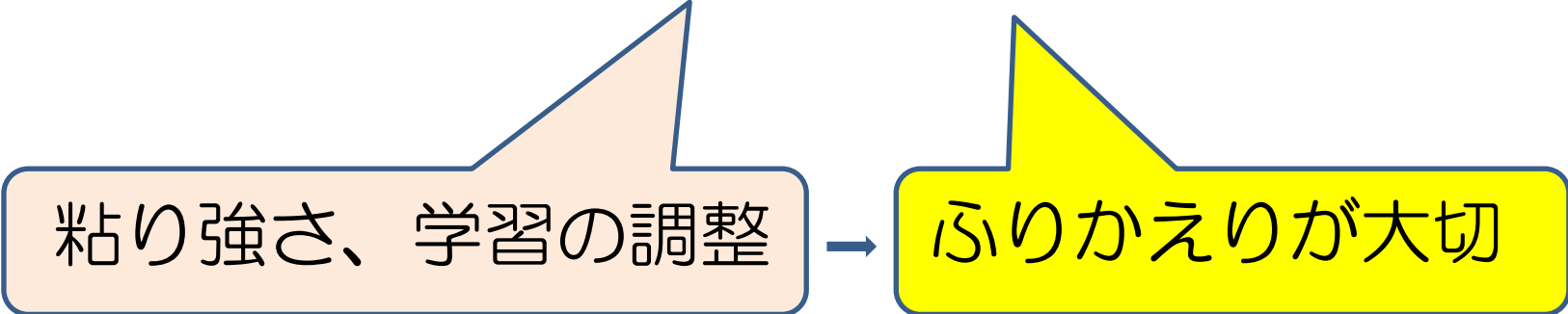
(2016/8/26 中教審教育課程部会 審議のまとめ 第1部p.46)

指示されてやる学習ではない

「主体的に学習に取り組む態度」の評価



子どもが「自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、**学習に関する自己調整**を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしたりしているかどうか」という、**意思的な側面を捉えて**の評価。



粘り強さ、学習の調整

ふりかえりが大切

3年2組 算数科
「表とグラフ」

〈振り返り紹介〉

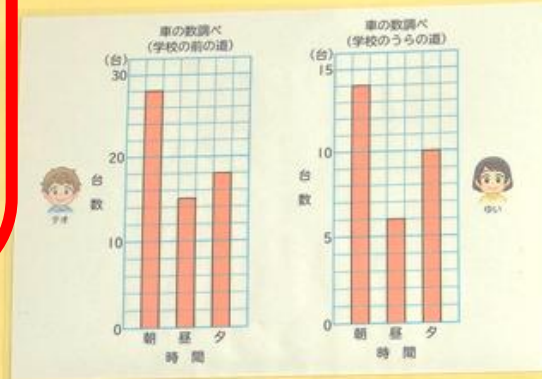
瑛士さんの説明が
わかりやすかったから、
わたしもがんばりたい。

1めもりが5で
びっくりした!

きのうとちがう
気がする...



2つのぼうグラフは、
どのようにくらべたら
よいかな?



わたしたちは
グループで!

わたしたちはペアで!



2・4・6...



めもりをそろえて、
見てくらべやすく
したい!

〈振り返り紹介〉

今日はグループやチームで考えて、黒小環境大使としての1つの目標を決めたい。

グループの話し合っていていいと思ったアイデアやチームで見つけたアイデアも参考にして黒小環境大使になりたい。

今日のめあて何にする？

この間考えた意見をグループで出し合って…



4年1組 社会科
「黒小環境大使！」
～わたしは〇〇します！～

黒小環境大使として
よりよい答えをみつけ
よう(児童が立てためあて)

あ!まだ、工作グループ
に入るカードがあるよ!



どのグループも
まとめ方がいい!



自分だけじゃなくて、他の人の考えを参考にしたり、みんなの意見を知ったりすることができたから、だいぶ黒小環境大使に近づいてきた!次の授業では、自分ができそうなことを1つ決定したい!

グループの中で、
個もあり、ペアもあり…

手だて4

「効果的・効率的なICT機器の活用で『たい!』を支える」

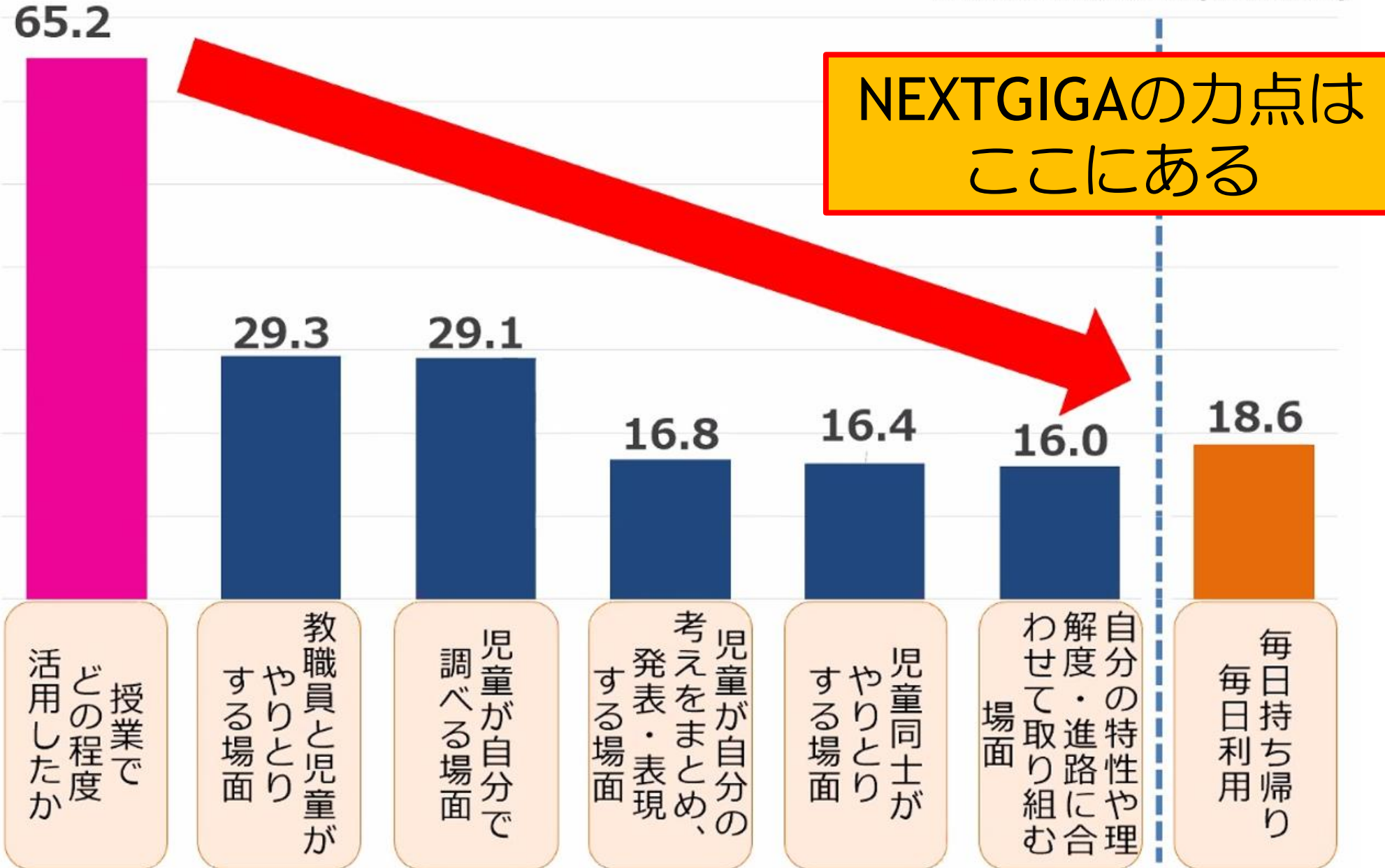
- ①他者参照で学びをつなぐ。
- ②思考ツールや学習支援ソフトで学びを支える。
- ③考えたことを一気に共有することで、時間を生み出し、深い学びの時間を確保する。

ICT活用の本質を踏まえた黒笹小

ICTを使うことを目的としてはいけない
「ICT活用論」より「授業論」

端末活用：ほぼ毎日と回答した小学校の割合（全国平均）

（R5全国学力・学習状況調査結果より[令和5年4月実施]）



令和5年度、最初に突き当たった壁は「ICT機器を効果的・効率的に活用し、児童の学びに生かす」でした。「ICT機器を使って研究授業を行うには、どの教科がいいだろう…」、そんな発想で授業を構想し始めていました。そして研究授業後の協議題にも、一つ目が「ICT機器を効果的・効率的に活用できていたか」という視点が掲げられていました。まさに多くの学校が陥りがちな「ICT機器を使うことが目的になった授業」の王道を走っていました。

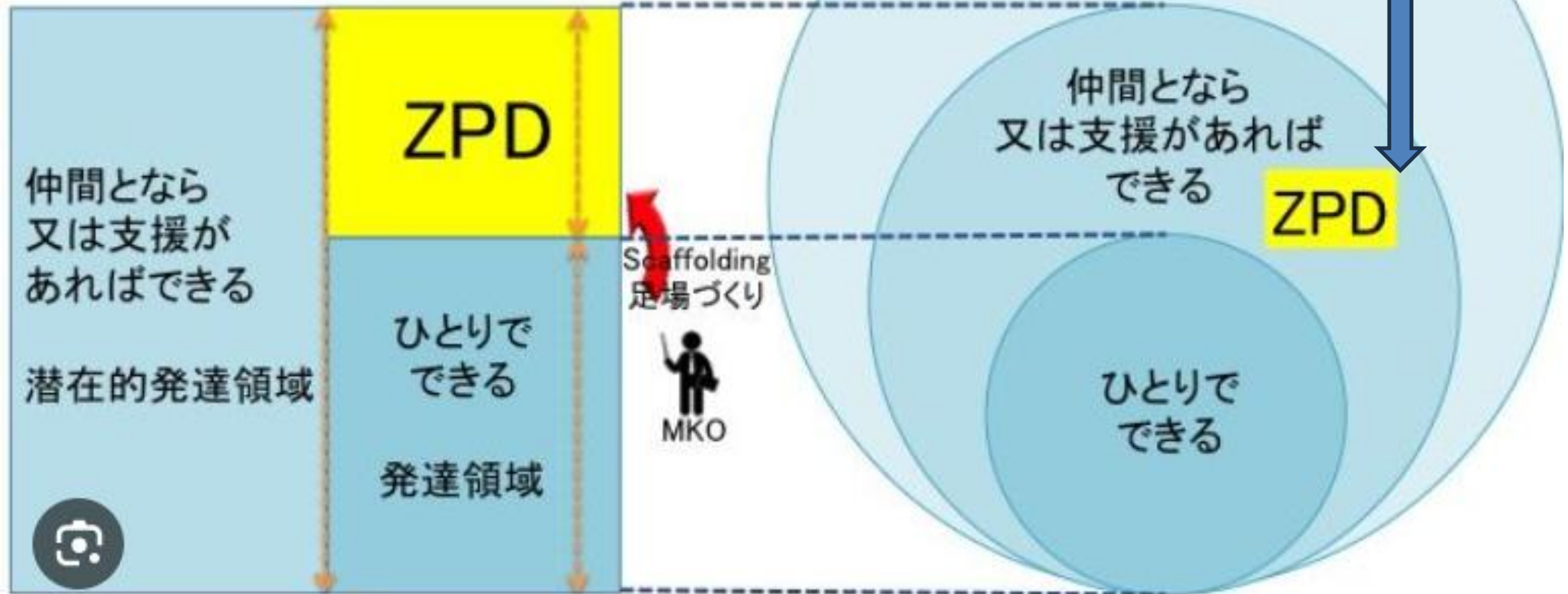
こうした捉え違いをはじめ、研究の方向性を分かりやすく丁寧に修正してくださったのが玉置崇先生でした。「先生たちは具体的にどんな子どもの姿をめざしてるの?」「先生が『こういう子どもに育てたい』だから『こういう授業をしたい』というのがスタートでしょ」「教材研究に支えられた魅力ある課題でないと、子どもの『～たい!』を引き出せないよ」「子どもの『～たい!』を大切にした授業設計をすれば、振り返りに必ず『～たい!』が出てくるよ。それを次時のめあてにしていけば、子どもの主体性を生かした授業になるよね」等々、そのたびに私たちは「そうか!」と肚落ちし、次の実践に向かう意欲が湧いてきたのでした。また、玉置先生には私たちの取組を一つ一つ価値付けていただきました。特に「黒小バイブル」の重要性を改めて再認識できたことは、授業を構想するうえで大きな強味となりました。こうした成果は、日々の子どもの姿に表れてきていると自負しているところです。

どんな子どもの姿をめざしているの?
こういう子どもに育てたいからこういう授業をしたいがスタート
魅力ある課題だからこそ、「～たい!」が出てくる
黒小バイブルの重要性

研究紀要 「おわりに」
黒笹小学校教頭 中林 優

最近接発達領域

ICT活用が有効



黒小バイブル の重要性



授業の展開の基本	1めあて(ゴールの確認→2個別・協働での学習→3共有(協働)・深い学び→4振り返り
授業規律	☐ 綺麗な黒板で授業をスタートする。
	☐ 机上は必要なものだけにする。(必要な時以外、筆箱、筆入れはしま
	☐ 話している人がいるときは、勝手に話さない、授業を進めない。皆で
つなげる	☐ 教師は出すぎず、子どもの思いを引き出し、子どもに話しをさせ、手
	☐ 意見をつなぐような投げかけ(みんなはどう? 付け足
	☐ ハンドサインの活用を推奨し、意見をつなげる

※本時につながる振り返りを取り上げながらめあての確認をする。

振り返りを大切にする中で
「～たい！」という気持ちを育む
自ら学習を調整する子ども

黒小バイブル の重要性

授業の展開の基本	1めあて(ゴールの確認→2個別・協働での学習→3共有(協働)・深い学び→4振り返り
授業規律	☐ 綺麗な黒板で授業をスタートする。
	☐ 机上は必要なものだけにする。(必要な時以外、筆箱、筆入れはしまう)
	☐ <u>話している人がいるときは、勝手に話さない、授業を進めない。皆で聴き合う。</u>
つなげる	☐ 教師は出すぎず、子どもの思いを引き出し、子どもに話しをさせ、手柄をとらせる。
	☐ 意見をつなぐような投げかけ(みんなはどう? 付け足しはある? 続けてどうぞ)で思考をつなぐ。
	☐ ハンドサインの活用を推奨し、意見をつなげる。意見・ちょっと違って●・つけたし●

社会性を育てる



黒小バイブル の重要性

授業の展開の基本	1めあて(ゴールの確認→2個別・協働での学習→3共有(協働)・深い学び→4振り返り
授業規律	☐ 綺麗な黒板で授業をスタートする。
	☐ 机上は必要なものだけにする。(必要な時以外、筆箱、筆入れはしまう)
	☐ 話している人がいるときは、勝手に話さない、授業を進めない。皆で聴き合う。
つなげる	☐ 教師は出すぎず、子どもの思いを引き出し、子どもに話しをさせ、手柄をとらせる。
	☐ <u>意見をつなぐような投げかけ(みんなはどう? 付け足しはある? 続けてどうぞ)で思考をつなぐ。</u>
	☐ ハンドサインの活用を推奨し、意見をつなげる。意見・ちょっと違って●・つけたし●



1往復半の技術（佐藤暁）



①発問→子どもが答える（一往復）

②周りの子どもに投げかける（半分）

いまのAさんの話だけど、みんなわかった？

Bさん、どんな話だったか、もう1回言ってくれるかな
どう？

聞こえた？

（発言内容を聞いていた子どもたちに返す）

黒小バイブル の重要性

めざす子ども像に近づくために

□単元の魅力的なゴールを示し、「たい!」を引き出す。「できるようにになりたい!」「こんなちからを付けたい!」「解決したい!」など

□自己選択(学習課題・学習方法・学習形態)の場面を設定する。
※自由にさせるのではなく、枠組みを作った中で、選択をさせるようにする。目指すべき大きな課題は同じ。

□授業の終わり5分前には、着陸準備。雛形を活用して振り返りをする。振り返りを次時のめあてにつなげる。

□ICT機器で意見を出し合ったあとは、内容について分析する視点をもたせる。「ちょっと見てみよう」と投げかけ、確認させてから、深い学びへつなげていく。

黒小バイブル の重要性



めざす子ども像に近づくために	☐ 単元の魅力的なゴールを示し、「たい!」を引き出す。「できるようになりたい!」「こんなちからを付けたい!」「解決したい!」など
	☐ 自己選択(学習課題・学習方法・学習形態)の場面を設定する。 ※自由にさせるのではなく、枠組みを作った中で、選択をさせるようにする。目指すべき大きな課題は同じ。
	☐ 授業の終わり5分前には、着陸準備。雛形を活用して振り返りをする。振り返りを次時のめあてにつなげる。
	☐ ICT機器で意見を出し合ったあとは、内容について分析する視点をもたせる。「ちょっと見てみよう」と投げかけ、確認させてから、深い学びへつなげていく。

黒小バイブル の重要性

めざす子ども像に近づくために

□単元の魅力的なゴールを示し、「たい!」を引き出す。「できるようになりたい!」「こんなちからを付けたい!」「解決したい!」など

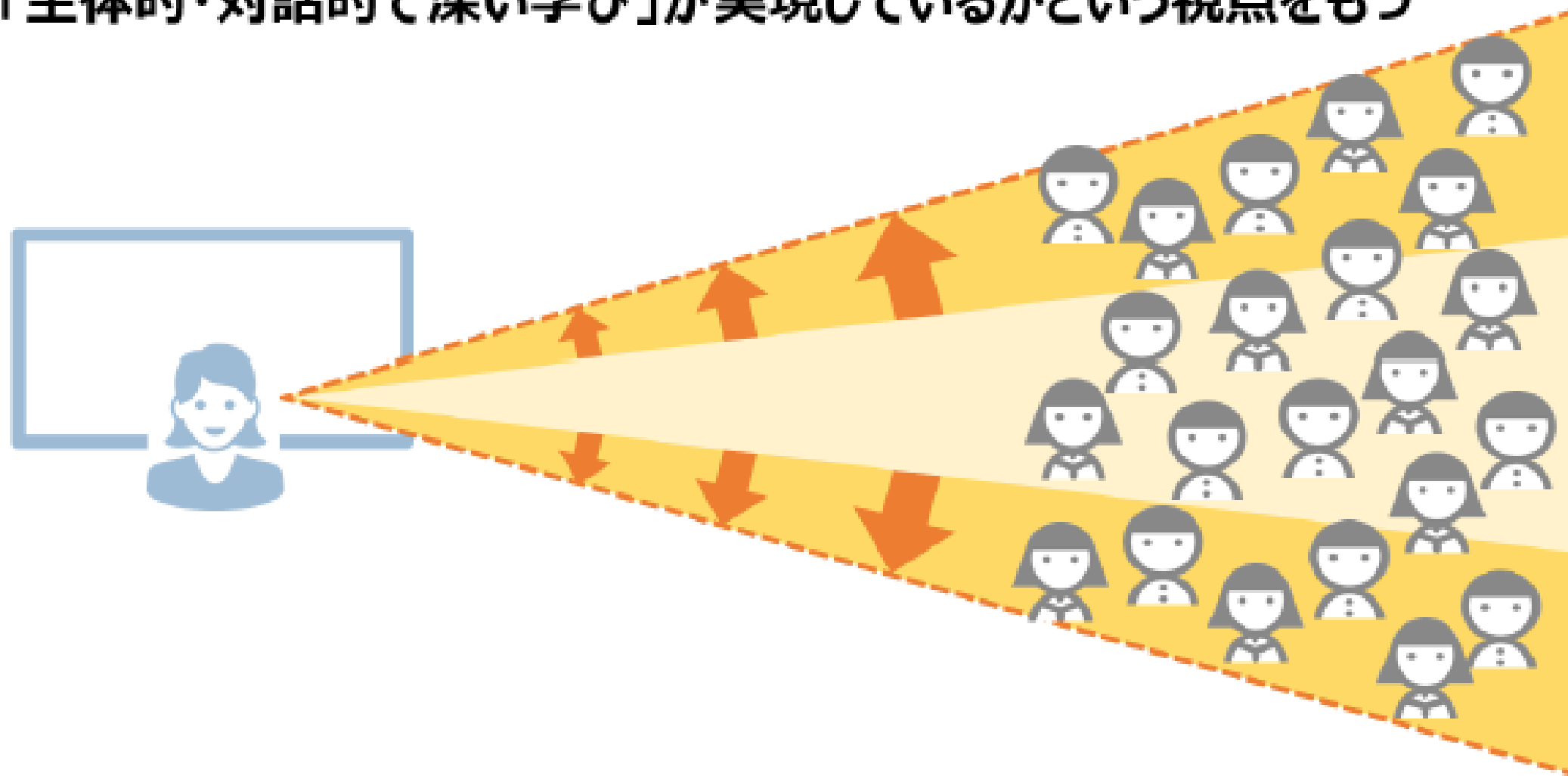
□自己選択(学習課題・学習方法・学習形態)の場面を設定する。
※自由にさせるのではなく、枠組みを作った中で、選択をさせるようにする。目指すべき大きな課題は同じ。

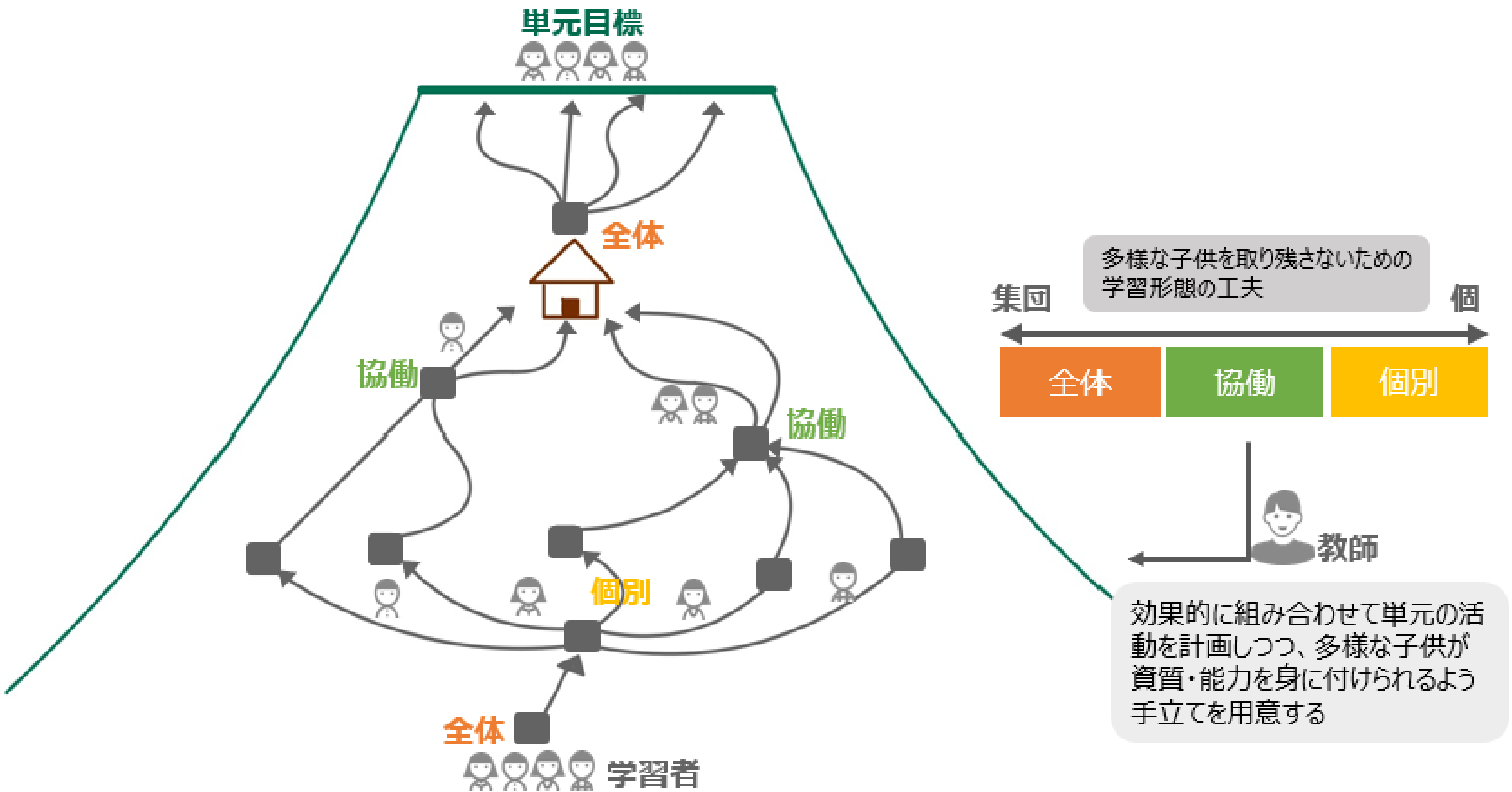
□授業の終わり5分前には、着陸準備。雛形を活用して振り返りをする。振り返りを次時のめあてにつなげる。

□ICT機器で意見を出し合ったあとは、内容について分析する視点をもたせる。「ちょっと見てみよう」と投げかけ、確認させてから、深い学びへつなげていく。



誰一人取り残さず全ての子供たちに
「主体的・対話的で深い学び」が実現しているかという視点をもつ





【基本的な方針、大切にしたいこと】

① 子どものためになる研究、自分たちのためになる研究にする

- ・研究発表のための研究、見せるための研究ではない。
- ・子どもたちの力が育つための研究、自分たちの力量向上につながる研究にする。
- ・できない子を置き去りにしない、すくってあげられるようにする。
- ・見栄えや見る人への必要以上の配慮だとか、そういったことには時間や労力をかけない。
- ・何が大切かを見失わないようにする。

② ちょっとしたチャレンジを大切にし、積極的に共有する

- ・研究授業のときに一気にがんばろうとしない。
- ・日々の授業などの中での「ちょっとこんなことを試してみよう」を大切にする。
- ・研究授業や研究発表はその延長。
- ・最初から完璧を求めるのではなく、ちょっとした試行錯誤の繰り返しを。
- ・上手くいったこともいかなかったことも、積極的に交流して先生同士も学び合う。

日常的な研究成果を
子どもの姿で示す

子どもは
応えてくれる

③ 勤務時間内で行えることを原則とし、持続可能な取り組みにする

- ・「研究発表だからたくさん時間をかけて当然」ではない。
- ・「やった方がいいこと」はいくらでもあるが、全てやろうとしたらつぶれてしまう。
- ・最も大切にしたいことや優先順位を考えて取り組み、無理なく続けられるものにする。
- ・とはいえ、研究（日々の授業）は大切にしたい。
- ・そのための時間を十分に確保できるようにするために、普段の業務も見直し、無駄をなくして時間を生み出せるようにする。

【情報共有のため、先生方の声を生かすために】

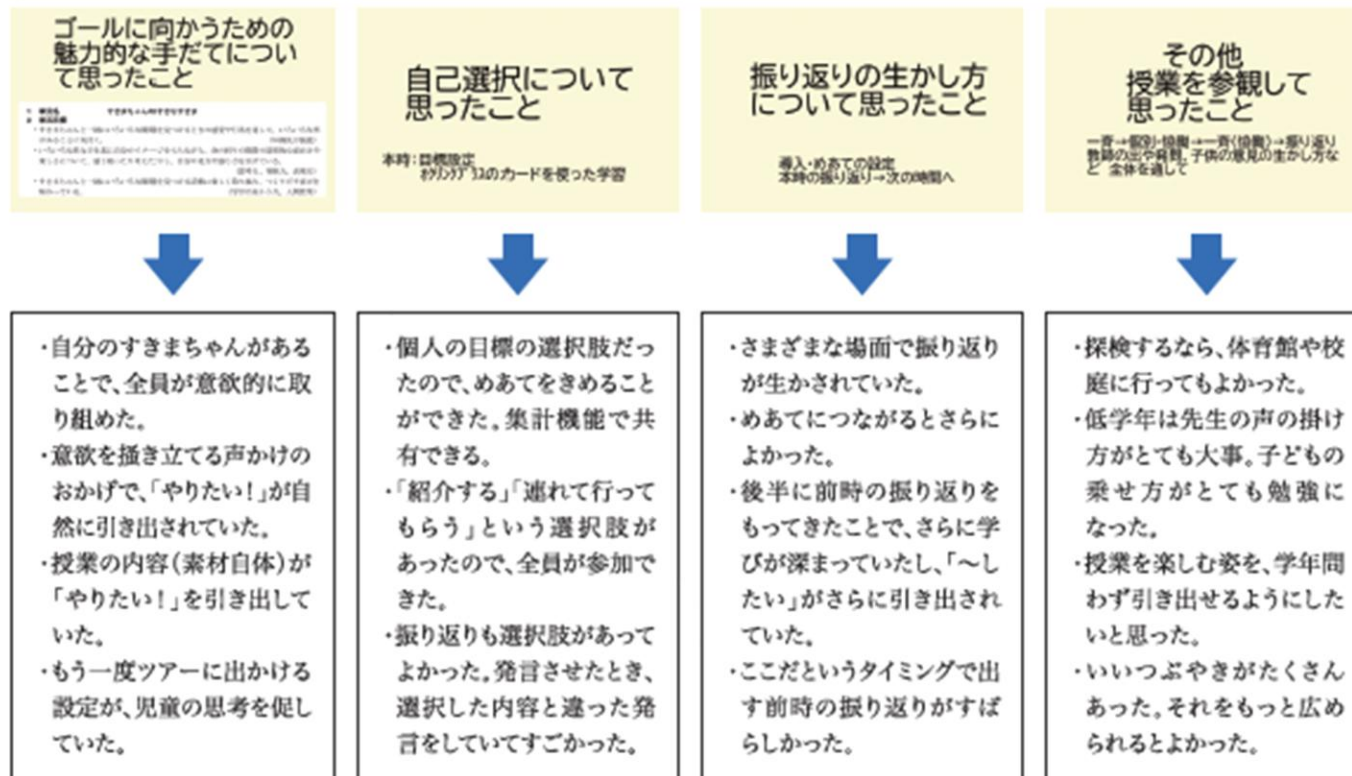
みんなで話す時間（授業を語る会）の設定

月曜日の打ち合わせ後 10分程度

- ① 学年部での情報共有・意見交換（学年ごとに終了） → その週の木曜に推進委員で共有
- ② 全体での情報共有・意見交換 → それをもとに次の取り組みに生かす

心理的安全性の高い
対話の重要性

協議会前に入力するコメントカード



コメント入力で交流

- ・探検するなら、体育館や校庭に行ってもよかった。
- ・低学年は先生の声の掛け方がとても大事。子どもの乗せ方がとても勉強になった。
- ・授業を楽しむ姿を、学年間わず引き出せるようにしたいと思った。
- ・いいつぶやきがたくさんあった。それをもっと広められるとよかった。

自分化シートの掲示

いい授業を見せなきゃ...ではなく、子どもたちの先を見通して「こんな姿になってほしいな」という思いをもって教材研究をすることを大切にしていきたい。	先生方がおっしゃったように、30人いる子どもたち一人一人の実態に合った手立てを、いかに負担少なく譲っていくことができるかを考えていきたい。
「こんな子供に育ってほしい」という強い思いを持ちながら、それに向かってめあての設定や効果的な振り返りを考えていきたい。	・通常学級でも個別最適な学びを達成できるように工夫してみたいと強く感じました。 ・まずは、算数や社会の授業から始めてみたいです。



職員室壁面

自分化シートの効用

いい授業を見せなきゃ...ではなく、子どもたちの先を見通して「こんな姿になってほしいな」という思いをもって教材研究をすることを大切にしていきたい。

教師の学びと子どもの学びは相似形



環境づくり部会

ねらい

めざしたい子どもたちの姿や授業風景を掲示することで、
学級・学年を越えた学びの共有を図る



児童の
振り返り

- ・自分たちの授業の様子が紹介されていて、うれしかった。がんばったことが、伝わるというと思う。(4年)
- ・昨年、梨農家のことを勉強したことを思い出した。3年生の子と梨農家の工夫について話ができそう！(4年)

たい!で広がる

みんなの学び

わたしの学び



関わり合い部会(ざさっこタイム)



ねらい

主体的・対話的にするための授業づくりに必要な基礎を身に付ける

児童の
振り返り

- ・ざさっこタイムを通して、普段あまり話さない人ともコミュニケーションが取れた。(4年)
- ・楽しいだけでなく、相手のことがよく知ることができてよかった。(5年)
- ・自分の聞き方や話し方が最初よりうまくなったと感じた。そして、自分から友達に話しかけられるようになった。(5年)
- ・自分の意見を一方的に押し通すのではなく、相手の考えや意見を理解して、お互いが納得できるような話を提案できる人になりたいと思った。(6年)

ICTスキルアップ部会

ねらい

タブレット端末を使用した協働学習を支えるために
必要な基礎を身に付ける



児童の
振り返り

- ・速く文字を打てるようになった。小さい文字を使った言葉を速く打てるようになりたいので、練習したい。(2年)
- ・タイピング練習を始めてから、打てるスピードが速くなりました。1分間に45文字という目標ですが、それに近くなってきました。「寿司打」を使うと、友達と競争もできるのでうれしいです。(4年)
- ・excelを初めて知りました。みんなと一緒に記録を入れたり、自動で平均や最高記録を計算してくれたりするのがすごいと思いました。(6年)

ICT関わり合い部会（ざさっこプラス）



ねらい

ICTを使って関わるスキルを身に付ける

児童の 振り返り

- ・しゃべらなくてもタブレットでみんなと話し合えることが分かりました。いいねボタンでもみんなの気持ちが分かってうれしかったです。（2年）
- ・みんなと話すと、いいね！とかメッセージが来ることがあって、みんなともっとなかよくなれるし、いっぱい話せて楽しいと思います。（2年）
- ・コメントだと考えたことを詳しく伝えられる。コメントは時間がかかるけれどリアクションだと時間がなくても思ったことを表せる。（6年）
- ・授業の時とかにいいと思った人に簡単に押せて、リアクション順に変えれば、いいと思った人がぱっと出るから授業がスムーズになると思いました。（6年）



本日の授業から学ぶ



**児童の思考を促す
主体的・対話的で
深い学びをもとめて**
～「たい！」を引き出し学びをつなぐ～